

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	社会連携機構は、教育、研究と並ぶ3つ目の柱である社会貢献のうち社会連携事業を推進するために、本大学の生涯学習機能、地域連携機能を担う全学的な組織として、幅広い分野の教員、学識経験者や職員から構成されるよう、社会連携機構規程において定めている。本機構は、社会連携担当副学長が機構長であり、機構の下に、大学の開放及び生涯学習事業の推進に寄与するための「リバティアカデミー」と地域社会と連携して地域人材の育成や地域課題の解決を図るための「地域連携推進センター」の二つの組織を設置している。設置の目的である地域連携活動の支援と生涯学習機会の提供等を推進することで、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することができるよう、双方の組織から委員を迎え入れている。				
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	社会連携機構会議・リバティアカデミー運営委員会・地域連携推進センター運営委員会の各委員会において、事業計画段階での適切性について審議したうえで、事業実施している。事業実施後は事業結果の検証・評価を行っている。また、実施する事業について、適切性を図りながら円滑に推進するために、各委員会の役職者で構成する社会連携機構スタッフ会議を2015年度は11回開催し、機構内の責任主体・組織、権限、手続きを明確にしている。また、学長方針に基づく「教育・研究に関する年度計画書」において、社会連携ポリシーや重点事業項目の適切性について検証している。 社会連携・社会貢献を推進する学内他機関との連携が必ずしも十分に機能しているとは言い難い。		学長方針に基づき作成する「教育・研究に関する年度計画書」において、社会連携ポリシーや社会貢献事業における社会連携活動について、明確な理念・目的に基づき事業推進しているが、社会連携・社会貢献を推進する学内他機関との連携が十分に機能しているとは言い難い。		社会連携・社会貢献を推進する学内諸機関と連携し、社会貢献活動を推進することで、社会連携機構の理念・目的の適切性を検証していく。

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	生涯教育、地域連携事業を推進するため、社会連携機構の下にリバティアカデミーと地域連携推進センターの二つの組織を設置している。社会連携機構の目的である地域連携活動の支援と生涯学習機会の提供等を推進することで、地域社会の活性化及び社会の発展に寄与することができるよう、双方の組織から構成員を選出している。さらにリバティアカデミー運営委員会の下に、専門部会を設置し、全学的協力体制を築き、生涯学習機関としての「質」の向上と体制強化さらに、カテゴリー・キャンパスごとに事業推進する方向性について検討している。なお、地域連携推進センターにおいては、「創業者出身地3地域」「キャンパス所在自治体」「連携協定締結自治体」などの連携事業において、個別地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムや地域連携活動について専門的に検討する専門部会をおくことができることが規定されているが、設置には至っていない。2015年度においては、キャンパス所在自治体との連携強化の重要性に鑑み、各自治体との部会設置に向けて、2014年度からキャンパス所在自治体との連携事業の推進方針を策定し、新たに世田谷区と相互協力協定を締結するに至り、充実度が増している。 リバティアカデミーは、本大学教員がコーディネータとして「本大学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムとして社会一般に提供し、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通じて「開かれた大学」としての姿を追求している。 地域連携推進センターは、国・地方公共団体、地域住民等の地域社会からの幅広い要請に応え、地域社会と連携して地域社会に貢献する人材の育成や地域課題の解決を図ることにより、本大学における教育研究の発展と地域社会への貢献を、上記目的を達成することを目標としている。 リバティアカデミー運営委員会、地域連携推進センター運営委員会ともに、学部・大学院との連携を有し、本大学の教育・研究理念を運営に反映することに成功している。 リバティアカデミーでは、受講ニーズに対応すべく、履修証明制度を活用した「女性のためのスマートキャリアプログラム」昼間コースを2015年4月に開設し、夜間・土曜主コースを10月から開設した。地域連携推進センターでは、地域からの要望に応えるため「学生派遣プログラム」等、本大学の知を地域に還元することに成功している。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	社会連携機構長、副機構長、リバティアカデミー長、副アカデミー長、地域連携推進センター長、副センター長、学術・社会連携部長に事務局を含めたスタッフ会議を2015年度に11回開催し、社会連携機構の事業推進方針の策定及びリバティアカデミー、地域連携推進センターの事業推進の方向性を検討するとともに、機構内の体制整備のための内規・基準制定等にも取り組んだ。				

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。【約400字】	社会連携機構規程により、社会連携機構事業目的を推進するための教員（特任、客員）を置くことができるため、教員任用に向けた「社会連携機構における教員の任用に関する内規」、同細則、「社会連携機構における教員の任用に関する内規」の特任教員にかかわる資格・審査に関する細則を制定し、社会連携機構教員の役割・求められる教員像を明文化している。 リバティアカデミーでは、リバティアカデミー要綱11条の規定に基づき、講師の任用に関し必要な事項をリバティアカデミー講師任用基準(内規)にて定めている。またリバティアカデミー講師に関するガイドラインにて、講師の基本姿勢、責務を明示している。地域連携推進センターでは、講師の任用に関し必要な事項を講師任用基準（内規）にて定めている。				
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか					
教員の編制方針に沿った教員組織の整備					
a ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。【600～800字】	リバティアカデミー講師任用基準に講師の資格を定め、本大学の公開学習プログラムを提供するに相応しい教員を任用している。教員編成について、2015年度にリバティアカデミー講座に関わった講師の内訳は学内講師約200名、学外講師約400名であった。学内講師については、所属学部等に対し、講師任用基準（内規）とともに講師一覧表を提出、周知した。 地域連携推進センターでは、講師任用に関して要綱中の規定に基づき、講師任用基準（内規）を定めて任用している。	教員任用規程をはじめとする関係規程及び社会連携機構教員任用に関わる内規・細則等が規定する、手続に則り、社会連携機構教員の役割・求められる教員像に基づき、機構客員教員を任用した。		社会連携機構教員任用に際しては、事業目的・内容に基づき、規定された基準手続に則って、教員人事を実施する。	
教員組織を検証する仕組みの整備					
b ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【600～800字】	リバティアカデミー要綱に定める事業を推進するために、講座開設及び開講に関する事項を定めた「講座の開設及び開講基準（内規）」が制定されている。また、全講座受講生に講座満足度のアンケート調査を実施し、講師を評価している。講座及び担当教員の適合性については、専門部会で検討し、運営委員会で承認する仕組みとなっている。				
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか					
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。【400字】	「社会連携機構における教員の任用に関する内規」、同細則、「社会連携機構における教員の任用に関する内規」の特任教員にかかわる資格・審査に関する細則」を制定し、これらに基づき、社会連携機構客員教員を1名任用した。 リバティアカデミー、地域連携推進センターにおいて教育を行う能力があると認められる者をそれぞれの講師任用基準（内規）に明記している。				

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	リバティアカデミーにおいては、受講生に講座終了時にアンケートを実施し、受講生の満足度を調査している。その中に講座内容や担当講師の項目があり、評価の対象にしている。 地域連携推進センター実施の講座および連携事業についても、アンケートを実施し、次年度以降の講座および事業運営にフィードバックしている。 リバティアカデミー、地域連携推進センター講座の担当講師は、重複する一部の教員に多くの負担をかけている傾向がある。	アンケート結果を用い、担当講師にフィードバックをし、次年度開設講座の改善に生かしている。	リバティアカデミー、地域連携推進センター講座の担当講師は、重複する一部の教員に多くの負担をかけている傾向がある。	アンケート結果に基づきニーズの高いジャンル・テーマの講座を次期に開設していく。	リバティアカデミー運営委員会の下に置かれた専門部会を強化するなどして、本大学教員の事業推進協力者を増やしていくための方策を立て、実施していく。	
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。	全講座の受講生に講座満足度のアンケート調査を実施している。その結果を講師へフィードバックすることで、講師は授業評価を知ることができる。					

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画																		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画																	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述																
(1) 受講生の受け入れ方針を明示しているか																						
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、学生の受け入れ方針を定めていること。	<p>リバティアカデミーは、会員制であるが、年齢、性別、学歴などを問わず、広く門戸が開かれている。春期と秋期に受講生の募集を行っている。</p> <p>また、「ビジネスプログラム」「教養・文化」「資格・実務・語学」各講座受講料が20%割引になる法人優待制度があり、法人優待制度の案内パンフレットで法人会員を募集している。新規入会特典として入会年度法人会員料が無料となることをパンフレット・WEBサイトで周知し、会員数が増加している。</p> <p>語学講座については、講座レベルと受講生のミスマッチを防ぐために、講座レベル度をパンフレットに明記したうえで、ガイダンス授業を開催している。</p> <p>過去3年度の会員数と受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2013年度</th> <th>2014年度</th> <th>2015年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人会員数</td> <td>14,432人</td> <td>11,845人</td> <td>14,462人</td> </tr> <tr> <td>法人会員数</td> <td>50社</td> <td>77社</td> <td>92社</td> </tr> <tr> <td>受講生数</td> <td>21,327人</td> <td>19,683人</td> <td>18,840人</td> </tr> </tbody> </table>		2013年度	2014年度	2015年度	個人会員数	14,432人	11,845人	14,462人	法人会員数	50社	77社	92社	受講生数	21,327人	19,683人	18,840人	新規入会特典として入会年度法人会員無料となる法人優待制度を導入し、パンフレット・ホームページで周知し、会員数が2割増加した。		引き続き新規入会者を獲得するために積極的に広報展開していくとともに、充実した講座展開を図ることで、初年度会員無料期間終了後の法人会員の本会員への移行及びこれまでも受けていた、会員企業からのオーダーメイド型研修の受託の拡大にも繋げていく。		
	2013年度	2014年度	2015年度																			
個人会員数	14,432人	11,845人	14,462人																			
法人会員数	50社	77社	92社																			
受講生数	21,327人	19,683人	18,840人																			
	<p>地域連携事業においては、本学創立者について学び、3人の創立者出身地へ実際に赴くことで、創立者と創立者のふるさとへの理解を深めること及び地域住民との交流や活動（現地体験）を行い地域に親しむことで、参加者自身が創立者のふるさとを「自分の新たな“ふるさと”」として捉え、地域の抱えている問題に向き合い、地域活性化に貢献することを目的とし、「ふるさと活動隊」を組織している。野沢温泉村においても、学生と地域住民との交流・連携及び現地調査・取材を通じた「地域活性化への提言」を行う課題解決型の学生派遣プログラムを実施している。募集に際しては、募集要項を作成し各キャンパスで説明会を行っている。</p> <p>また、キャンパス所在自治体における連携事業の一環として、音楽を通じた町おこしを活動趣旨とし、お茶の水JAZZ祭をはじめとする千代田区における各種祭事の運営に参加する明大町づくり道場を組織している。募集に際しては、学生が主体となって募集要項を作成し、各キャンパスで説明会を行っている。</p>	地域連携事業における「ふるさと活動隊」及び学生派遣プログラム並びに明大町づくり道場の活動は、学部を超えて学びの機会を提供しているとともに、地域社会の多様な人々と協働及び交流することで、コミュニケーション能力醸成の場としても高い効果が得られている。	「ふるさと活動隊」参加者の任期は在学中となっており、過年度現地在を訪問した参加者が、次年度にどのような活動を継続していくべきかを検討する必要がある。	地域連携事業に多くの学生が毎年継続して主体的に参加することで、社会連携機構が推進する社会連携活動全体のさらなる知名度を学内・外で向上させることに繋げていく。	「ふるさと活動隊」参加者が主体的に次年度参加者に経験を伝えて継続していただける体制を構築し、経験者は自ら創立者のふるさとを訪問したり、東京でのこれら地域PRイベントに参加できる仕組みと関係性を構築してもらうよう連携自治体に働きかけていく。																	

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 適切に受講生の募集及び受講者の確保に努めているか						
a ●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか) 【約400字】	<p>春期および秋期に発行されるリバティアカデミーパンフレットにて、受講生を募集している。パンフレットは、リバティアカデミー会員、学生、校友、父母会役員、企業、自治体等に幅広く送付し、リバティアカデミーの公式WEBサイトにおいても公開している。</p> <p>全国校友に対する発送号である「明治大学広報(9月号)」「明治大学広報(1月号)」において、2015年度リバティアカデミー講座を案内し、全国の校友に対しての広報を強化した。</p> <p>履修証明制度「女性のためのスマートキャリアプログラム」においては、募集概要に基づき春期・秋期それぞれ面接試験を導入し、プログラム開設趣旨に沿った受講生を受け入れている。</p> <p>司書講習においては、運営委員会で受講生の質を確保すべく合否判定をしている。</p> <p>地域連携事業においては、「ふるさと活動隊」及び学生派遣プログラムについて応募理由書の提出を必須とし、センター長と事務局で応募書類を総合的に判断して選考している。</p> <p>また、明大町づくり道場においても、募集要項に明確な活動趣旨を提示した上で、社会連携機構の目的・理念の下に活動することを理解した者が参加する体制となっている。</p>					

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか					
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	本大学は、建学の精神である「権利自由・独立自治」を継承し、また都心型大学としての特長を活かして、その使命と責任を果たす必要があり、「社会連携ポリシー」を社会との連携・協力に関する方針として定め、大学ホームページを通じて広く社会に公表している。その中で「『社会連携』を『研究』と『教育』に加えて大学の重要な使命として明確に位置付けるとともに、これに教職員等が一致協力して取り組み、大学の社会的責任を果たす必要があり、産業界等の活性化にとどまらず、より広い視点から社会の発展に寄与することに努めなければならない」と基本姿勢を明確にした上で、環境保全・平和利用、主体性・自主性の尊重、情報の公開と管理の原則、法令等の遵守から構成される4つの原則を明示している。				
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか					
①教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動					
○生涯学習の推進（リバティアカデミー）による教育研究の成果の還元 ※連携の目的や将来構想等を付記いただくことより分かりやすいと思います。講座数、受講者数等も本文中に記載するようにお願いします。	○生涯学習の推進（リバティアカデミー） リバティアカデミーは「多様化し、深化する社会のニーズに対応したカリキュラムや講座を企画・設置し、生涯教育の内容の高度化を図る」ことを実現すべく2015年度は416講座を開講し、18,840名が受講した。リバティアカデミー講座の講師は、本大学教職員をコーディネータとして講座企画あるいは講師とすることを方針としており、2015年度は延べ464名の本学教職員が参加した。リバティアカデミー講座の延べ講師数は1,045名であり、本学教職員の割合は44.4%となっている。カリキュラムは、大学の知を広く開放するものとして「教養・文化講座」、高度職業人養成に向けて最新のビジネススキルを提供する「ビジネスプログラム」、学生の就職や資格取得を支援する「資格・実務・語学講座」等に大別され、公開学習プログラムとして開講している。リバティアカデミーでは、多様な生涯学習ニーズに対応するため、履修証明制度を活用した「女性のためのスマートキャリアプログラム」を昼間コース及び夜間・土曜主コースの2コースを開講し、教養文化講座におけるゼミ形式講座も開設している。 特色ある活動として、文部科学省や東京都などから委嘱・委託事業を受け、また「民間企業のビジネス研修」を受託し、「オーダーメイド型社員研修」として実施している。これらビジネス研修等を支える仕組みとして「法人優待制度」があり、2015年度には92社が会員登録しており、企業研修の一環として派遣される受講生も多い。 受講者数は1999年設立時の2,081名からここ数年は2万人前後で推移している。リバティアカデミーは、職業能力の再訓練を図る教育活動も目的の一つとしていることから、受講者の年齢分布を評価指標として検証すると20歳代以下21.9%、30歳代11.6%、40歳代17.4%、50歳代17.7%、60歳代24.2%、70歳代以上20.7%と幅広い世代に必要な	○生涯学習の推進（リバティアカデミー） リバティアカデミー事業推進における推進方針として、量的拡大よりも質的向上をめざし、多様な生涯学習ニーズに対応するため、教養文化講座でゼミナール形式の講座を開設したほか、2015年4月からは履修証明プログラム「女性のためのスマートキャリアプログラム」昼間コース、10月からは夜間・土曜主コースを開講した。さらに、リバティアカデミー新規入会者獲得及び既存会員への特典として開設するオープン講座についても分類・整理し、開設方針の見直しを図った。 ブックレットの評価は高く、リバティアカデミー講座の教材として	リバティアカデミーブックレットについて、受講生の学習成果の発表の場としての側面がやや薄れている。	○生涯学習の推進（リバティアカデミー） 量的拡大から質的向上をめざす事業推進方針に基づき、これまでの個々の講座の企画を中心としたボトムアップ的な運営から、今後はカリキュラム全体や、個々の講座の質向上などに関して、各専門部会及び運営委員会において、全体的観点からマネジメントを強化し、教育内容の高度化や、学習ニーズに対応したプログラムを編成していく。履修証明プログラム「女性のためのスマートキャリアプログラム」は、昼間のみ開設している科目を夜間・土曜にも設置する等、受講生のニーズに応じたカリキュラム内容としてさらに充実を図っていく。 さらに、企業受託研	リバティアカデミーブックレットについて、講座担当教員及び審査委員会に依頼する際、再度発行趣旨を周知徹底し、受講生の学びの成果がより伝わる内容としていく。

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>教育成果を還元している。さらに30歳代から50歳代の就労世代の受講が4割を超え、職業能力向上を含めた継続学習に資している点において所期の目的を達成し、教育研究成果を社会に還元する責務を十分に果たしている。</p> <p>2005年度から受講生の継続的な学習を支援し、受講成果を認証することを目的として、単位制度（アカデミーポイント：AP）を独自に設定し、累積修得ポイントを個人ページで確認できるよう配慮している。ポイントは、7.5時間1ポイントで、90分授業5回相当となっている。さらに規定単位に達した場合に教養・文化講座受講者に「リベラルアーツ」、ビジネスプログラム受講者に「ビジネス・アドミニストレーション」の称号を授与しており、2015年度は196名に授与した。称号授与者とは交流会を実施し、授与者からの意見を講座運営の質的改善及び事務局サービスの向上に役立てている。2015年度は72名の称号授与者が参加した。</p> <p>また、2004年度から、講座の成果に基づく論集・報告集として、リバティアカデミーブックレットを刊行している。受講生やその担当講師より申請された論文等は、リバティアカデミー運営委員会の下に設置される審査委員会の厳正な審査を経て刊行される。2015年度は3冊が刊行され、総数は33冊となった。</p>	も活用されているほか、学内書籍店でも販売しており、本学の実践的な知と教育研究成果を広く社会に還元した。さらに、受講生の学びの成果の発信の場としての機能も有している。		修、寄付講座など外部資金を用いた講座を積極的に展開していく。		
(検証システムと改善実績)	<p>2015年度にリバティアカデミー運営委員会は7回開催し、開設講座や称号授与、新たに履修証明制度を活用した「女性のためのスマートキャリアプログラム」履修生の入校許可者の決定、ブックレット発行について審議したほか、2014年度の事業実績を振り返り、2015年度の事業推進方針を審議した。また、毎年、社会連携機構としてリバティアカデミーの自己点検・評価を行っており、次年度の講座企画・運営のための検証を行っている。検証システムの柱となるのは「講座終了時の受講者アンケート」による教育方法や教材等の受講満足度や講座ニーズに関する調査である。その調査結果は担当講師へフィードバックすることにより、次回以降の講座の質保証に生かされている。開設講座を検討する「専門部会」及び開設講座を審議決定する「リバティアカデミー運営委員会」では、受講生のニーズに応える新規講座の開設を検討する材料とするなど、厳格な講座運営を行っている。</p>					

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
○地域社会との連携、自治体への政策形成への寄与 ※加えて、受講者アンケートや外部評価委員会による評価など検証の仕組みがあれば追記してください。根拠資料を検討ください。	○ 地域社会との連携、自治体への政策形成への寄与 地域連携推進センターは、「創立者出身地である鳥取県（岸本辰雄）、天童市（宮城浩蔵）、鯖江市（矢代操）の3地域」及び「キャンパス所在自治体」との連携事業を中核に、「連携協定締結自治体」などとの連携事業において、地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムを多様な形態で実施すべく、自治体との連携は現地での連携講座や自治体連携講座（リバティアカデミーオープン講座、特別企画講座）など35講座を実施し、計3,757名が受講している。また、各地域・自治体との連携に関して、協定等に基づく連携事業を推進する自治体数は23自治体である。加えて、学内諸機関が推進する各種地域連携活動を支援し、広く社会に発信することを実施することとしており、学内諸機関及び専任教職員が推進する地域連携活動について調査し、ホームページで公開し、地域連携事業における全学のハブ的機能を果たすことを目的としている。各自治体とは連携協定等に基づき、連携事業の深化発展を目的とする連携・連絡協議会を設置し、事業推進しており、地域の活性化に寄与している。地域社会からの要請に応え、民間企業からの受託事業「地域活性化調査事業」や自治体からの要請に応えた「自治体受託講座・研修」を実施している。 特に、2009年度から推進してきた創立者3名の出身地との協定については、現地へ講師を派遣する公開講座及び本学で開催するオープン講座並びに連続講座の実施をはじめ、本学で夏秋に3地域の食材を用いた「ふるさと食のフェア」を実施するなどして活性化を図っている。2012年3月に文部科学省と共催した「熟議 2012 in 明治大学」は、熟議手法を活用し、学生参加による本大学独自の社会連携プログラムである「創立者出身地への学生派遣プログラム 2012」の実施につながり、「同プログラム2015」を実施した。学生参加による社会連携活動は、現地フィールドワークにおいて地域の課題を発見し、地域の多様な組織体や住民との交流を踏まえ、地域活性化の政策提言の報告会を行うもので、提言内容が各自治体において実現される等、地域住民の地域活性化への「気づき」につながっている。		学内諸機関及び地域連携推進センターが推進する地域課題の解決や地域社会と連携した地域人材育成等の地域連携活動について調査・把握のうえ、情報公開したが、集積した情報がデータベース化されておらず、必ずしも全学的地域連携事業のハブ的機能を果たすことには至っておらず、地域連携推進センターが目的とする地域連携活動が、本大学における教育・研究活動の発展に十分に結びついていないとは言い難い。		学部等学内諸機関及び専任教職員が推進する地域連携活動等について調査・把握し、データ互換性及び開発に要する経費を鑑み、ホームページの見やすさと使い勝手を改善した上で、広く社会に情報発信に努めるとともに、自治体等地域社会からの要望や各種補助金助成金の情報を調査し、マッチングを図り、全学的な地域連携事業のハブ的機能を果たしていく。	

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目		
				「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(検証システムと改善実績)	<p>新規連携事業希望自治体からの連携事業推進に関しては、2011年度に「受入れ基準」を整備し、連携における最終目的を「包括連携」に置くことを基本として質的・量的発展をめざしている。この基準により、各自治体との協議は円滑に進めることができ、2015年度には、新たに群馬県富岡市及び東京都世田谷区との連携協定が締結された。</p> <p>本学地域連携事業が本学の知的資産を活用して地域に貢献すると同時に、自治体が目指す目標実現の場及び本学学生の成長に資する活動の場として相互に寄与する一定の成果が得られている。</p> <p>2015年度に地域連携推進センター運営委員会は5回開催し、連携事業の質的・量的発展を目指していくために、2014年度の活動実績を振り返り、2015年度の活動方針を決定したうえで、2015年度事業計画や自治体との連携事業内容、新規連携希望自治体との連携事業推進方針を審議した。また、毎年、社会連携機構として地域連携推進センターの自己点検・評価を行い、次年度連携事業を企画するための検証を行っている。地域連携推進センターにおいては、「創業者出身地3地域」「キャンパス所在自治体」「連携協定締結自治体」などとの連携事業において、個別地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムや地域連携活動について専門的に検討する専門部会をおくことができることが規定されているが、設置には至っていない。2014年度においては、キャンパス所在自治体との連携強化の重要性に鑑み、各自治体との部会設置に向けて、まず、キャンパス所在自治体との連携事業の推進方針を策定し、社会連携機構役職者を各自治体の事業推進担当者として配置した。</p>	地域連携推進センターにおいては、個別地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムや地域連携活動について専門的に検討する専門部会の設置を目指し、キャンパス所在自治体との連携事業の推進方針を策定し、社会連携機構役職者を各自治体担当として事業推進することとした。		キャンパス所在自治体との連携事業の推進方針に基づき、地域連携推進センターにキャンパス所在自治体ごとの専門部会を設置し、連携事業推進について検討することに加えて、リバティアカデミーにおいても、地域連携事業の一環としての生涯学習機会提供の観点から、地域連携推進センターと連携した事業推進について検討する。		
(キャンパス所在地域における連携)	<p>○ キャンパス所在地域における連携</p> <p>各キャンパス所在自治体における連携事業については、これまでの実績を踏まえ制定した、各キャンパスおよび農場所在自治体等との連携事業推進方針に基づき、事業推進すべく自治体との連携を図っている。</p> <p>①駿河台キャンパス</p> <p>学生主体による音楽を通じた町づくり事業「明大町づくり道場」や「お茶の水JAZZ祭」を行っている。お茶の水JAZZ祭は、千代田区長から協力要請を受けたことから端を発し、本大学出身校友と本大学学生らからなる実行委員会が主催者となり、本学が共催し、2007年度以来、アカデミーコモン3階ホールを埋める約1,000名の来場者を得て毎年開催している。また、千代田区とは、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」に基づく教育支援事業である「千代田学」に2015年度は3件採択され、教育面でも継続して所在地域との連携を図っている。</p> <p>②生田キャンパス・黒川農場</p> <p>生田キャンパスの所在する川崎市多摩区とは、多摩区内の専修大学及び日本女子大学とともに多摩区3大学連携協議会を設置し、連携事業を実施しているほか本学地域産学連携研究センターと連携した講座を実施した。</p> <p>黒川農場所在の川崎市麻生区とは、麻生区内（一部隣接する町田市）大学と麻生区6大学公学協働ネットワーク会議を設置し、連携事業を実施している。生田キャンパス・黒川農場を活用し、地域小中学生向けの体験型事業を実施した。</p> <p>③和泉キャンパス</p> <p>世田谷区と連携協力に関する協定締結を推進する方針に基づき、世田谷区と区内大学との調整連絡会議へ参加し、新たに相互協力協定を締結した。</p>	各キャンパス所在自治体における連携事業については、これまでの実績を踏まえ、各キャンパスおよび農場所在自治体等との連携事業推進方針の下、事業を推進している。杉並区との連携事業については和泉教務事務室と連携し、世田谷区との連携事業については主として和泉キャンパス課と連携して情報の共有化を図っている。		キャンパス所在自治体との連携事業の推進方針に基づき、地域連携推進センターにキャンパス所在自治体ごとの専門部会を設置し、連携事業推進について検討することに加えて、リバティアカデミーにおいても、地域連携事業の一環としての生涯学習機会提供の観点から、地域連携推進センターと連携した事業推進について検討する。世田谷区が推進する各大学留学生と地域の交流活動等について、本学国際連携部担当が推進会議に同席する等、更なる学内関係部署との連携強化を図っていく。		

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>杉並区については、杉並区と区内高等教育機関との連携協働推進協議会に基づき、連携事業を推進している。</p> <p>また、和泉キャンパスにおける連携事業について関係部局・和泉キャンパス内関係部署と協議を実施した。</p> <p>④中野キャンパス 中野区と締結した連携協力に関する包括協定に基づき設置された連絡協議会を開催し、中野キャンパス所属教員とも連携した連携事業を推進している。</p>					
<p>b (検証システムと改善実績)</p> <p>●社会連携・社会貢献の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。</p> <p>●その検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。</p>	<p>2015年度に地域連携推進センター運営委員会は5回開催し、連携事業の質的・量的発展を目指していくために、2014年度の活動実績を振り返り、2015年度の活動方針を決定したうえで、2015年度事業計画や自治体との連携事業内容、新規連携希望自治体との連携事業推進方針を審議した。また、毎年、社会連携機構として地域連携推進センターの自己点検・評価を行い、次年度連携事業を企画するための検証を行っている。</p> <p>地域連携推進センターにおいては、個別地域の課題解決（地域活性化等）を目的としたプログラムや地域連携活動について専門的に検討する専門部会をおくことができることが規定されているが、設置には至っていない。2015年度においては、キャンパス所在自治体との連携強化の重要性に鑑み、2014年度に策定されたキャンパス所在自治体との連携事業推進方針により連携事業を推進した結果、新たに世田谷区との連携協定締結に至った。</p>					

2015年度 社会連携機構 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画	
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a	◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	2013年7月に制定された社会連携機構自己点検・評価委員会内規に基づき、委員会を2回開催し、点検・評価を実施し、評価結果は、機構会議に報告し、年度計画書に反映させている。 また、リバティアカデミー講座運営委託業者に対しては業務運営自己点検・評価の実施を依頼し、提出された報告書によって業務運営状況を確認している。				
(2) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a	●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check (点検・評価) およびAction (改善) の具体的内容・工夫 【800字～1000字程度】	自己点検・評価を実施し、その結果を次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」に反映することで、改革・改善につなげている。2015年度の自己点検・評価のうち、全体の教室使用状況の限界と効率化、履修証明プログラム運営上の諸課題及び連携協定締結に係る判断基準の明確化並びに既存協定の連携状況を鑑みた整理などの課題については、2016年度計画に反映し、計画的に改善を図ることとした。 リバティアカデミー講座については、全講座で受講生にアンケートを実施している。アンケートでは、講座の満足度・興味関心分野などの評価を求め、意見を自由に記述できる方式を併用している。アンケートの集計結果からは、愛顧度が高く、ロコミ的広報効果が期待できると思われる会員の有無等について、リバティアカデミー運営委員会及び専門部会において検討した。専門部会においては、受講生の興味関心を反映し、ヘルスケア・健康寿命の延伸やポジティブ心理学などを2016年度講座開設方針に活用している。また、アンケート結果は講師へフィードバックすることにより、各講師が自己点検を行い、次年度の開設する講座企画に反映させている。		リバティアカデミーにおいては、特に履修証明プログラムは約4カ月間継続して教室を使用することもあり、履修証明プログラムが充実してきたことで、全体の教室使用状況限界が浮き彫りになり、開講曜日の分散など効率化を図る必要がある。また、地域連携事業においては、協定を締結している自治体との連携事業の実施状況等を鑑み、継続及び見直し等の検討を進めていく必要がある。		リバティアカデミーにおいては、履修証明プログラムをはじめとして土曜日午前中の活用等、時間数を集中して教室利用の効率化を図るとともに、受講生の利便性を上げニーズに順応していく。 地域連携事業においては、既存協定の実施状況の精査及び協定年限の確認と見直し並びに再設定等を進めていく。